

立命館大学理工学部 学生員 ○久保 幸恵
 立命館大学理工学部 正会員 小川 圭一
 立命館大学理工学部 フェロー会員 塚口 博司
 立命館大学 正会員 安 隆浩

1. はじめに

文化財は、人類の歩んだ歴史を物語る形あるものであり、災害から保護し後世に遺していくことが重要になってくる。近年、文化財防災の活動が活発になってきている背景として、1995年の阪神・淡路大震災や、異常気象がもたらす自然災害によって多くの文化財が被害を受けたことが挙げられる。

しかし、国や地方自治体の予算内で文化財防災に費やせる人材・資金には限りがあるため、人命救助・災害復旧などと比べ「文化財防災」がどの程度着目されており、またどの程度重要視されているのかを考える必要がある。そこで本研究では、代表的な社会的指標である新聞・論文を用いて災害ごとにキーワードを決め、文化財防災に対する着目度と重要度を比較・分析することを目的とする。

2. マスメディアの影響

社会を構成する多数の人々を対象とする大量の情報伝達をマス・コミュニケーションと呼び、その情報媒体である新聞・雑誌・ラジオ・テレビなどをマスメディアと呼ぶ。マスメディアの「議題設定機能」とは、社会で注目される可能性のある出来事が取り上げられるにつれ、受け手側でそのトピックが意識されるようになる働きである。

そのため、受け手側がその情報を意識することで、問題の重要性を認識したり優先順位をつけたりするという点で大きな影響を与えており、マスメディアは社会的着目度を計る指標になりうるといえる。

3. 災害別のキーワードの決定

朝日新聞・日経読売新聞・読売新聞・毎日新聞と国立情報学研究所による論文情報ナビゲータ (CINII) の

オンライン検索サービスを利用し、各災害に関する記事を200件ずつ取り上げる。以下には日本経済新聞の火災に関する記事を例として載せている。

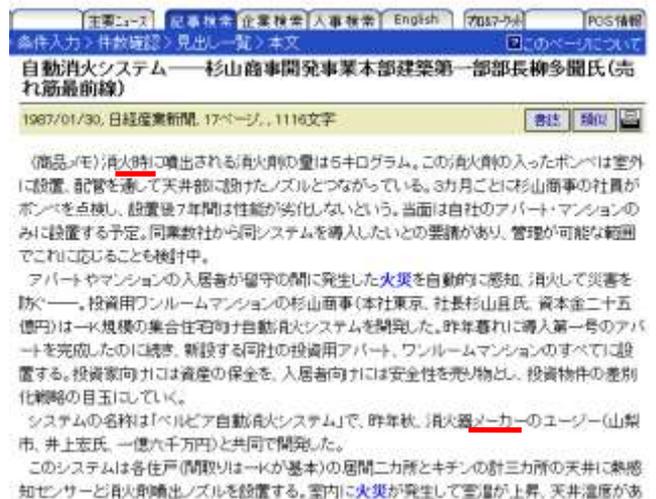


図1 日経新聞 (火災に関する記事)

図1の「消火」「消火器」のように火災に関連するキーワードをピックアップし、各キーワードの使用されている記事数の統計を取っていく。ただし、CINIIにおいては、新聞と比べて論文の件数が少ないので100件とする。これを、地震・火災・水害・土砂災害で行い「各会社で数にあまり差がないキーワード」と「各会社で数の差が大きいキーワード」を取り出し災害ごとのキーワードに決定する。

この結果、地震は「マグニチュード・震度・耐震・地殻・断層」、火災は「スプリンクラー・避難・防火・報知機・出火」、水害は「台風・浸水・豪雨・堤防・洪水」、土砂災害は「生き埋め・地盤・がけ崩れ・地すべり・土石流」に決定した。

4. 文化財防災への着目度と重要度の比較

決定した各災害のキーワードを用いて「キーワードを含む記事数」(A)・「各キーワード+防災」の記事数

(B)・「各キーワード+文化財」の記事数 (C)・「各キーワード+防災+文化財」の記事数 (D) を災害ごとに集計する。ただし災害ごとの 5 つのキーワードについては、いずれか 1 つ以上含むものを抽出し複数のキーワードを含み記事の重複を避ける。記事の検索期間は 1987 年 1 月 1 日～2010 年 12 月 31 日とする。

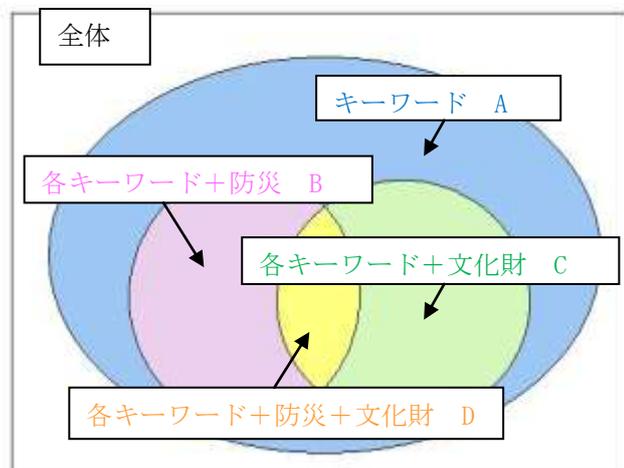


図2 キーワードに関する集計値の関係

そして図2の (D/B=防災に関する記事の中での文化財に関する記事の割合) と (C/A=ある災害の記事の中で取り上げられている文化財に関する記事の割合) を比較することで、「防災」という視点と「災害」という視点から見た文化財への着目度を比較する。

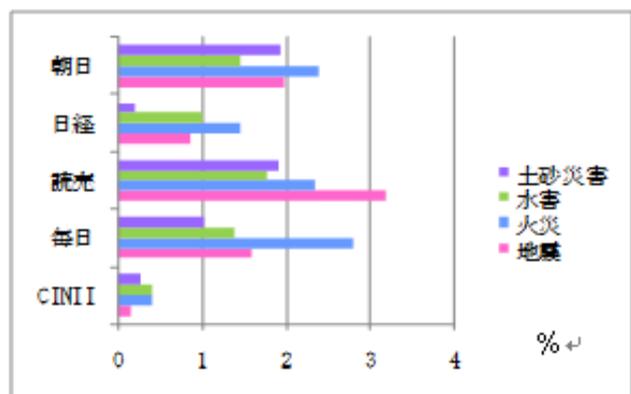


図3 防災から見た文化財への着目度 (D/B)

図3より、読売新聞を除き、「火災」に関する記事の割合が他の災害に比べて大きくなっていることが分かる。また、日経新聞においては文化財に着目している記事の割合が他の新聞に比べかなり小さくなっている。これは、日経新聞が日本の経済に関係している記事に特化している特徴が出たと推察される。読売新聞においては、「防災という視点から見た文化財への着目度」が一番高い。CINIIにおいては「防災という視点から見た文化財への着目度」が、新聞社に比べどの災害も5

～6分の1程度になっていることから「文化財防災」に関しての重要度はそこまで高くないとされているためこれまで研究がされてこなかったと推察される。

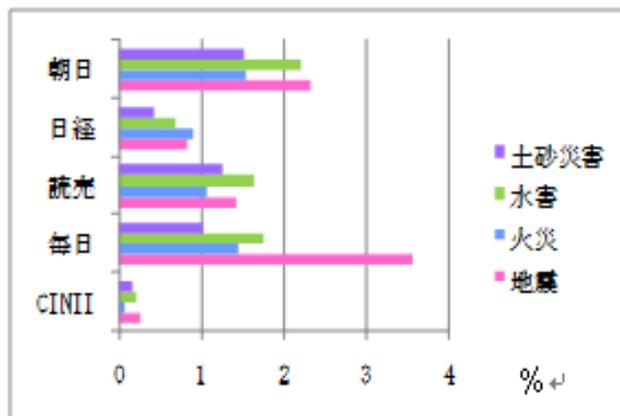


図4 災害から見た文化財への着目度 (C/A)

図4より、「災害という視点から見た文化財への着目度」は朝日、毎日、読売、日経新聞、CINIIのそれぞれかなりばらつきが出る結果となった。どの災害に着目しているかは各会社によってばらつきが出ているが、極端に少ない災害はないと言えるだろう。

5. 終わりに

4章より、朝日新聞・毎日新聞・日経新聞・CINIIにおいては「災害という視点から見た文化財への着目度」と「防災という視点から見た文化財への着目度」がほとんど同じだったが、読売新聞においては「防災という視点から見た文化財への着目度」が「災害という視点から見た文化財への着目度」の約2倍になっており災害が起きた時の「文化財」への着目度が低くなっていることが分かる。

本研究は、オンライン記事検索サービスを利用し、キーワードを決定して比較を行っているため、より正確な値を求めるためにもキーワードを変えて値を出すことも必要と考えられる。

【参考文献】

- 1) 朝日新聞：聞蔵Ⅱビジュアル
- 2) 日本経済新聞：日経テレコン
- 3) 読売新聞：ヨミダス歴史館
- 4) 毎日新聞：毎日ニュースバック
- 5) NII 論文情報ナビゲータ：CINII